

【地の利を生かした食品加工、嶺北地域の横のつながり、特色ある高校づくりについて】

A： 商工会で活動しており、地域の行事や産業祭などに参加しております。それから、嶺北杉に形をつけて町の産業が回るようになればと、ばうむ合同会社にも参加をしています。最初立ち上げたメンバーは、みんな本山町の商工業者の二代目で、車屋や文房具屋、工務店の者が集まっています。いずれ自分の商売にも直結するのではないかとということで立ち上げて、今、一生懸命前を向いてやっています。

以前、ばうむの勉強で訪れた岐阜県のある市は、6市町村ぐらいが合併したところで、仲がうまくいってなかったそうです。それを行政の力で何とかしようと、「心の合併プロジェクト」を立ち上げて市を舞台にした映画を作ろうと動き、6万人ぐらいの人口で寄付金が1千万円以上集まり、もうその映画も出来上がったそうです。嶺北も横のつながりが弱いと思いますので、そんな映画づくりなどをきっかけにして、若い世代が横でつながれるようになっていければいいかなと思っています。

活動の中での課題は、生姜の加工についてです。嶺北は生姜の生産量が多いうえ、陸路の流通としては一番本州に近いので、生産者というだけではなく、それを加工して商売として成り立つようなことがあればもっと地域の活性化になると思います。

あと、県の産業振興計画の話し合いにも出ていますが、そこで感じるのは、嶺北の人の力、マンパワーの素晴らしさです。横のつながりがもっと強固にならなければいけないなといつも感じています。人口が4町村合わせても2万人いませんで、2万人もいるという考え方じゃなくて、2万人しかないのだからみんなで結びついていかなければいけないと思います。

今、ソフトバンクの孫正義さんが、太陽光発電を各県に投げ掛けて動こうとしています。それは休耕田を利用するというものなのですが、嶺北全体で見ると、大川村の白滝とか大豊町のゆとりすとパーク、梶ヶ森のように、太陽にすごく近くて太陽光の取り入れも盛んなところが多いです。自然と太陽光発電が共生できる名所にもできると思うので、是非具現化するようになってくれば、嶺北に持ってきてほしいなと思います。

それから、私の店は嶺北高校の隣にあります。やはり夏休みとかになって高校生がいなくなると、(寂しいな、やっぱり子供がいないと)と思うんですね。

今、中高一貫型であるとか、特色ある高校づくりが進められています。地域は過疎化で人口が減退しているという中で、高校卒業課程と同時に調理師免許が取れるという宮崎の高校とか愛媛の高校、そして高知にも、福祉介護士2級が取得できる福祉体育科を設けた学校が4校あるようです。同じように資格を取るために専門学校に行けば、150万から200万円というお金がかかってしまいます。子どものために、特色ある高校を作って教育をしてあげることが一番大事なことになるだろうと思います。

その中で、この嶺北高校に高知県唯一の実践型教育プログラムの科があれば、将来、社会福祉士になりたい、調理師になりたいという子が高知市内や南国から集まってくるとい

うことも考えられるので、特色ある高校を作ったりできたらと思います。

知事： ばうむの皆さんは本当に大活躍されて、地産外商の旗手みたいな感じです。嶺北材に付加価値をつけるんだと始められて、加工品を作り、あれよあれよという間に東京のデパートの定番になりましたね。ある意味、地産外商の素晴らしい先行事例だと思います。

今おっしゃっていた、地の利を生かして食品関係の加工をやっていくべきだというお話、加工してやっていくことによって、より雇用が生まれてくるということはあると思います。それをいろいろなところで進めていきたいと思っていますし、また、地域の皆さんのニーズをできるだけ受け止めていければなと考えています。

一次産業に付加価値を付けて加工して売っていくという形、そこに雇用が生まれるというのを、いろいろな仕組みで応援したいと思っています。

ばうむさんもそうですが、地域アクションプランに是非なってもらいたいという事例もたくさんありますし、他にも出てきてほしいと思っています。今、こうち型集落営農の取り組みを一生懸命進めようとしていて、その取り組みの中で加工部門とか観光という形で広がりを持って、いろいろな形で現金収入が得られる集落づくりを目指していただきたい、また、そういう政策を進めようと思っています。

横のつながりが弱いというお話ですが、嶺北八菜の取り組みとか、去年の10月には嶺北地域観光交流推進協議会を立ち上げられたりされていますよね。

それからソフトバンクとの協議会、高知県も参加としたところですが、むしろ全国で高知を含めた4県が一番最初に話をし始めました。高知県は、太陽もたくさん注いで、かつ集中的に雨もたくさん降る、両方成り立つのは珍しいことですよ。そして、森林面積割合も全国ナンバー1ということ、本当に新エネルギーの宝庫ならば高知県だと思うんです。

そういったものをしっかり生かすことが成長のためには必要だと思いますし、そういう意味では、新エネルギーを大いに生かして産業振興にもつなげていきたいと思っています。またそれが観光資源になって、地域の誇りとなることも十分あると思うんです。ただ新エネルギーには、技術的に開発をしていかないといけないとか、土地をものすごく必要とするとか、可能性とともにいろいろと限界もあると思っています。大規模な新エネルギーを生かした施設を作ればなと思っています、他県やソフトバンクとも連携していきたいと考えています。是非、いろいろな地域の自治体の皆さんとお話させていただきたいです。

最後に嶺北高校のことですが、特色のある科目を設けることで若い人を呼んでくるということ、おっしゃるとおりだと思います。例えば四万十高校でも環境学科を作っていて、やっぱり県外からたくさん若い人が来ているらしいです。他方でこの一定特色ある学科を作るためには一定以上人数がいらないといけない、しかし、人が来るようにするために特色ある学科を作らないといけない、堂々巡りになるようなところもあるのかなと思います。

元々中高一貫で、しかも中学校と同居型という嶺北高校は、それ自体が特色づけだと思
うんですけど、今後特色ある科目をどう設置していくか、確かにこれは地域地域の拠点と
なりうる高校を守っていくための本当に大きなポイントなんでしょうね。

今が再編計画の第1期目ですけど、このときにできるだけ高校ごとに特徴を出そうと動
いています。2期目に向けて、人口減少をにらみながら整理をしていく段階になっている
んです。しかし、今1期目が間もなく終わろうとしています、今後もこの地域の高校ご
との特色ある取り組みの応援を続けたいといけなんでしょうね。

全県でいろいろな高校に関わる話だと思いますし、いろいろなやり方があるかと思いま
すので、ちょっと研究をさせてください。